

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学

所属 リハビリテーション学科

名前 鈴木雄介

作成日 2025 年 4 月 21 日

1. 教育の責任

現在までに担当した科目

高次脳機能障害作業療法学Ⅰ(総論) 必修 3年(平成29年度～現在)
高次脳機能障害作業療法学Ⅱ(各論) 必修 3年(平成29年度～令和5年度)
身体障害作業療法学Ⅰ(総論・中枢神経系) 必修 2年(平成28年～令和5年度)
身体障害作業療法学Ⅱ(整形外科・変性疾患) 必修 3年(平成29年度～現在)
クリニカルリーズニング 必修 3年(平成29年度～現在)
作業療法特論Ⅳ(高次脳機能障害) 選択 4年(平成30年度～令和5年度)
見学実習(作業療法) 必修 1年(平成30年度～現在)
検査・測定実習 必修 3年(令和2年度)
評価実習 必修 3年(令和2年度)
総合臨床実習Ⅰ(作業療法) 必修 4年(令和3年度)
総合臨床実習Ⅱ(作業療法) 必修 4年(令和3年度)
作業療法評価学総合演習 必修 3年(令和2年度)
作業療法基礎ⅠA 必修 1年(令和5年度)
作業療法基礎ⅠB 必修 1年(令和5年度)
作業療法基礎ⅡA 選択 1年(令和5年度)
作業療法基礎ⅡB 選択 1年(令和5年度)
作業療法卒業研究 必修 4年(令和3年度)
作業療法概論 必修 1年(令和5年度～現在)
作業療法研究法 必修 3年(令和5年度～現在)
作業療法研究法演習 必修 3年(令和2年度～現在)
作業療法総合講義 必修 4年(令和3年度)

教育活動

リハビリテーション学科学生支援委員(平成28年度～平成30年度、令和6年度)
リハビリテーション学科教務委員(平成30年度～令和4年度)
リハビリテーション学科図書委員(令和6年度～現在)

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私は現在、臨床現場を離れ、教育・研究機関において、入職当初より臨床現場で求められる作業療法士としての知識や技術のみならず、患者や家族、他のコメディカルスタッフとの関係で求められる人間性がどのようなものであるかを学生たちに伝えてきました。しかし、学年担当として学生に接する機会を得ると、厳しい家庭環境で過ごしてきた学生、自身のパーソナリティやアイデンティティに悩む学生、思っているような学生生活を送れず、不遇に過ごしてきた学生たちの存在を知りました。このような学生達に接するにあたり、作業療法士としての専門性を教育し、主体的に学ぶ姿

勢を醸成するだけでなく、社会に出る前段階として彼らに教授しなければならないことがたくさんあることを知りました。私は幸い、高等学校卒業後、四年制大学、作業療法士養成課程の専門学校、大学院、と様々な教育機関において学びの機会を得、たくさんの師から有形無形の宝物を授かりました。また、現在の所属機関においても、偉大な先輩教授から学生教育についての薫陶を受ける機会を得ました。この経験を活かし、私は現在、高い教養と確かな人間性をもつ一人の社会人となれるような学生教育に努めています。

2) 理念をもつに至った背景

私が作業療法士の道を選択したのは、心身に障害のある方に対して、専門的な養成課程でしっかりと知識と技術を学び、それを活かして援助をしたいと考えたからです。しかし、晴れて作業療法士国家資格を取得した後の、臨床現場での15年間は、知識や技術の不足から自らの未熟さを不甲斐なく思い、患者に対して申し訳なく感じる毎日でありました。そのような日々の中でも、患者に益となる作業療法を実践しようと積極的に学会発表し、学術論文を投稿して研鑽し、諸先輩からたくさんの貴重な指導をいただきました。

臨床業務の中で常に感じていたことは、作業療法士養成校在学中に学んだ知識や技術が、その後の臨床業務や研究に大きな影響を与えているということです。基礎知識の習得や実習の経験、同じ志を持つ仲間とのふれあい、時に厳しく、時に温かく接してくれた教員との関係、これらの経験が現在の作業療法士としての私を形成しているといっても過言ではありません。このような思いから、臨床現場での勤務時期には多くの作業療法士養成校の臨床実習指導を担当してきました。臨床実習生への指導方法に苦慮することは多かったですが、指導する側の私自身も臨床実習生たちから多くのことを学びました。私が臨床実習指導者として特に心掛けていたことは、主体的に臨床実習生が学べる環境を作るよう配慮することです。そのように指導した臨床実習生が汗を流して治療に励み、臨床実習終了時に対象者の方に名残惜しげにお礼を述べ、それに応える対象者とのやり取りの場面に遭遇すると、臨床教育の醍醐味を実感することができました。

3. 教育の方法・戦略

教科書のみならず、ハンドアウト資料を作成し、学生の理解度を高められるよう意図しました。また、適宜疾患についての動画を準備するなどの工夫をすることで理解度を高める配慮しています。可能な限り実際の臨床場面を想定した教材を使用し理解が進むように構成しています。また、評価や予習・復習のポイントを明確にすることで自己学習を行いやすいようにも配慮しています。毎回の予習確認テストと宿題を配布し、次回講義に採点することで、自宅学習時間の確保と定期試験前に重要箇所のおさらいができるよう配

慮しています。

4. 学習成果

学生からの授業評価では、総合平均はおおむね期待通りの状況であることが確認できました。特に学生の意欲の目安となる意欲平均は大幅に向上しています。勉強平均時間は、毎回の予習復習が必要な課題を設定したための増加と考えます。今後も同様の取り組みを行い、学修効果が上がるようにしたい。また、熱意平均が項目中高い得点であったことは、教員の講義に対して意欲をもって取り組んでいるという目安となり、その姿勢が学生に伝わっているということは教員としてうれしい限りです。さらに、教え方平均が項目次点に高い得点であったことは、教員の教育能力の一つの目安となると考えられるため、謙虚に受け止めつつ今後の講義展開に生かしていきたいと考えています。

5. 改善のための努力

講義内容のパワーポイント資料を配布してほしいという学生が数名いましたが、基本的に教科書をベースに講義を進め、適宜板書し、その板書に関しても記載個所を丁寧に指導しているため、教員としてはハンドアウトをもらうだけで満足するようなことがないよう配慮しているつもりです。初回講義にその理由を説明したいと考えます。

6. 今後の目標

作業療法士としての専門性を教育するだけでなく、様々な背景をもつ学生たちが、学ぶ喜びを得、主体的に学ぶことができる環境とは何かを真剣に考えて学生教育に取り組み続けたいと考えています。そして、私自身も彼らと共に学び、自らを高めていけるよう努力していきます。

【添付資料】

なし